

遊び心溢れる演出、新年は華やかに、ワルツで年明けを!

ウィーン・シェーンブルン宮殿オーケストラ

ニューイヤー・コンサート 2018

program

- ヨハン・シュトラウス2世:喜歌劇「こもり」より序曲
- ヨハン・シュトラウス2世:ワルツ「芸術家の生活」
- ヨハン・シュトラウス2世:ワルツ「南国のバラ」
- ヨハン・シュトラウス2世:ホルカシュネル「トリッチ・トラッチ・ホルカ」
- フランツ・レハール:喜歌劇「メリー・ウイドウ」第3幕より
アリア「唇は黙っていても」(ソプラノ&バリトン)
- ヴィクター・ハーバート:Royal Secシャンパン・ギャロップ
- ヨハン・シュトラウス2世:ワルツ「皇帝円舞曲」
- エメリッヒ・カールマン:喜歌劇「チャールダーシュの女王」第1幕より
アリア「ハイヤ、ハイヤ、山こそわが心の故郷」(ソプラノ)
- ヨハン・シュトラウス2世:喜歌劇「ウィーン気質」第2幕より
2重唱「ウィーン気質」(ソプラノ&バリトン)
- ヨハン・シュトラウス2世:ワルツ「美しく青きドナウ」ほか



バリトン: フィリップ・シュビーゲル
Philippe Spiegel, Bariton



指揮: ヴィニシウス・カター
Vinicius Kattah, Conductor



ソプラノ: シモーナ・アイジンガー
Simona Eisinger, Soprano



Schloss Schönbrunn Orchester Wien

2018年 1月8日 月祝 開演 14:00 (開場 13:30)

長野市芸術館メインホール

チケット
発売開始
9/29(金)

料金 S席7,000円 A席6,000円 B席5,000円 C席3,000円 ※全席指定・税込・未就学児入場不可

- 店頭購入 【長野】NCACチケットセンター TEL.026-219-3191(10:00-19:00/火曜定休) / ホク文化ホール / ながの東急 / 平安堂川中島店 / 若槻店 / アベレコード / ヒオキ楽器 / 美鈴楽器
- ネット予約 オフィス・マユ <http://office-mayu.com>
- 電話予約 オフィス・マユ TEL.026-226-1001
- ローソンチケット TEL.0570-000-407 (Lコード: 32194)
- チケットぴあ TEL.0570-02-9999 (Pコード: 344-610)

チケット代+送料82円の合計金額をご入金ください。入金確認後、チケットを郵送いたします。振込手数料はお客様にてご負担くださいますようお願いいたします。
【郵便振替】口座記号・口座番号=00520-9-77326 加入者名=オフィスマユ 【銀行振込】八十二銀行県庁内支店 普通預金 口座番号=31030 口座名=オフィスマユ

主催: 信濃毎日新聞社/信越放送/オフィス・マユ 共催: (一財)長野市文化芸術振興財団 お申込み・お問合せ オフィス・マユ TEL.026-226-1001 (平日9:30~18:00)

Schloss Schönbrunn Orchester Wien



ウィーン・シェーンブルン宮殿オーケストラ Schloss Schönbrunn Orchester Wien

ウィーン・シェーンブルン宮殿オーケストラは、マネージャー兼プロデューサーのペーター・ホセック氏によって1997年に設立された、帝都ウィーンの魅力的な時代を音楽で伝える、国際的に名高いウィーンの室内管弦楽団である。

高い音楽の水準に加え、統一されたサウンド、喜びあふれる舞台、非の打ちどころのない外見で音楽を表現することで、同団は他の楽団から際立った存在となっている。

同団は、かつてのオーストリア＝ハンガリー君主国の夏の宮殿、シェーンブルン宮殿で定期的に演奏している。しかし、それ以外にも世界中で、このオーケストラの魅力あふれる演奏を楽しむ機会はある。選ばれた特別な時に、ウィーン・シェーンブルン宮殿オーケストラはヨーロッパと海外の両方で国際的に演奏を行っている。

過去のコンサートツアーでは、スウェーデン、フィンランド、デンマーク、ノルウェー、中国、日本、東南アジア、ドイツ、ギリシャ、ブルガリア、ルーマニア、アメリカ、ブラジルで熱烈に迎えられた。

同団のレパートリーは、ヨゼフ・ハイデン、フランツ・シューベルト、W.A.モーツァルトの作品に集中しているが、さらにシュトラウス一家とその時代のウィーンの作曲家であるスッペ、ミレッカー、ツェラー、レハール、カールマンの作品も重要な側面である。

ウィーン・シェーンブルン宮殿オーケストラは、演奏する曲のウィーン流の解釈に大きな重点を置いている。同団は、古典派のウィーンの作曲家の作品とウィーン音楽を、微妙かつ独特のタッチを持って、常に「ウィーン」の音を加えて解釈することに秀でているのである。

同団は1997年より首席指揮者のグイド・マンクージ、首席客員指揮者のヴィニシウス・カタールと共に演奏している。マティアス・フレッツベルガー、デヴィッド・スカール、ミカ・アイヒェンホルツ、リック・シュテンガルズも同団の常連の指揮者である。



バリトン：
フィリップ・シュピーゲル
Philippe Spiegel, *Bariton*

オーストリア人バリトン、フィリップ・シュピーゲルは、チリのサンティアゴで生まれたが、インスブルックで育ち、ウィルテン少年合唱団のボーイソプラノ・ソリストとして最初の音楽的経験を得た。17歳でウィーンの音楽舞台芸術大学に入学し、カール

ールハイツ・ハンザーとマリヤナ・リボヴシェクにリトとオラトリオを学び、優秀な成績で最終試験に合格した。さらに、クリスタ・ルートヴィヒ、トーマス・ハンブソン、ミハエル・シャーデ、トーマス・クヴァストホフ、ヘルムート・ドイチュのマスタークラスを受講した。コンクールでは、プリマ・ラ・ムジカ・ユース・コンクール、グラデュス・アド・パルナッスム・コンクール、ベルリンのドイツ連邦歌唱コンクール等で入賞している。また、siaa財団より俸給を受けている。

オペラの分野では幅広いバリトン役のレパートリーを築いており、ババゲーノ（魔笛）、フィガロ（セビリアの理髪師）、マルチェッロ（ラ・ボエーム）、マゼット（ドン・ジョヴァンニ）、グリエルモ（コジ・ファン・トゥッテ）、メリッツ（ヘンデルの「アルチーナ」）、ベルケット伯爵（ハイデンの「報われたまこと」）、ファルケ博士（こうもり）、ゾロアストロ（ヘンデルの「オランダ」）等を歌っている。

オペラのほか、シュピーゲルはコンサートやリト・リサイタルの歌手としても多忙である。出演したコンサートには、バッハの「クリスマス・オラトリオ」やモーツァルトの「レクイエム」のバス・ソロが含まれる。また、ヨゼフ・ハイデンの「天地創造」（ラファエルとアダム）とバッハの「マタイ受難曲」（イエス/アリア）もレパートリーの一部であり、ウィーン楽友協会やマドリッド国立音楽堂で歌っている。最近では、ザルツブルク祝祭大劇場で世界初演された、若手作曲家ヤコブ・グルッフマンによる新しいオラトリオ「モーゼ」で題名役を歌った。

シュピーゲルは、ザルツブルク音楽祭（若手歌手のプロジェクト）、ヴェルビエ音楽祭等の著名な音楽祭にゲスト出演している。

最近の出演には、アン・デア・ウィーン劇場でのユピテル（オッフェンバックの「地獄のオルフェ」）と、「エウリディケを救い出そう」のオルフェウス役が含まれる。

シュピーゲルは、2009年より定期的にシェーンブルン宮殿管弦楽団と共演している。



指揮：
ヴィニシウス・カタール
Vinicius Kattah, *Conductor*

1986年ブラジル生まれの若き指揮者ヴィニシウス・カタールは、2011年ブルードナウ国際オペラ指揮者コンクール1位、及び2016年ルイジ・マンチネリ国際オペラ指揮者コンクール3位の受賞者である。

オーストリアのウィーンを本拠地に、カタールはこの7年間でウィーン国立歌劇場、楽友協会、コンツェルトハウス、ホーフブルク宮殿、シェーンブルン宮殿等で指揮している。現在は、ヨハン・シュトラウス・ヴィルトウオーゼン管弦楽団、及びメトロポリタン室内管弦楽団の首席指揮者。

著名なドイツ人指揮者、ヘルムート・リングにドイツとアメリカで学ぶ奨学金を受ける機会を得て、カタールは若くして指揮を始めた。

学業を終えると、カタールはオペラの世界に身を投じる。ケルン歌劇場でコレペティールと指揮者助手、スロヴァキア国立オペラで客員指揮者を経験し、現在はプロヴディフ・オペラ、ブルガス・オペラ、ドニプロペトロウシク・オペラを含むヨーロッパの歌劇場で客員指揮者として仕事をしている。また、オペラ団「オーペラ」の創立者で音楽監督でもある。

2013年には、ランゲンロイス音楽祭にてフィリップ・アーノクール演出のオペレッタ「ウィーン気質」を指揮している。カタールの音楽的才能は現代音楽の世界でも発揮されており、ウィーン・モダン・フェスティバルにおけるディルク・ダーゼの「アズラエル」、2015年ムジクテアターゲ・ウィーンにおける「disPlace」など、多数の現代オペラの初演を指揮している。また、ノイエ・オーパー・ウィーンでは指揮者助手とコレペティールを務めた。

カタールの専門はW.A.モーツァルトの音楽である。2015年、カタールはプロジェクト「トゥッティ・モーツァルト」を立ち上げた。このプロジェクトは、今後10年間に渡り、モーツァルトのすべての曲の古楽器による演奏を、年代順にYouTubeで紹介するというものである。

ヴィニシウス・カタールは、2012年よりウィーン・シェーンブルン宮殿オーケストラの首席客員指揮者を務めている。



ソプラノ：
シモーナ・アイジンガー
Simona Eisinger, *Soprano*

スロヴァキアの外交官の娘としてウィーンで育ち、ウィーン・コンセルヴァトリウム私立音楽大学で声楽を学び修士号を取得した。プリギッテ・ファスベンダー、エディタ・グルベローヴァ、ヘルムート・ドイチュ、ジュリアス・ドレイク等のマスタークラスを受講し、さらにプリギッテ・ファスベンダーとエディット・リーンバッハーの指導を受けた。

音楽に加え、アイジンガーはウィーン経済・経営大学で国際経営学の学位も取得している。

幼少期にはバレエ、ジャズダンス、タップダンスのレッスンを受けており、ラテン・アメリカン・ダンスのトーナメントで賞を獲得している。

歌手としては、ウィーン・フィデリオ・コンクールとフランツ・レハール国際オペレッタ・コンクールの2度の受賞がある。また、チューリッヒのアルミン・ヴェルトナー財団の奨学金を授与された。

2007年にバーデン州立劇場でデビューして以降は、ウィーン・フォルクスオーパー、アン・デア・ウィーン劇場、ヨーゼフシュタット劇場、リンツ州立劇場、クラゲンフルト州立劇場、ゲルトナーブラウツ州立劇場、ミュンヘン室内歌劇場、ルツェルン劇場等のオペラハウスと劇場のほか、オスタークラング、サンクト・マルガレーテン・オペラ・フェスティバル、タボル城オペラ、オペラ・クロスターノイブルク等の音楽祭に出演している。

レパートリーには、パミーナと侍女1（モーツァルト：魔笛）、フラスキータ（ビゼー：カルメン）、グレーテル（フンバーデック：ヘンゼルとグレーテル）、デスピナー（モーツァルト：コジ・ファン・トゥッテ）、エンヒェン（ウェーバー：魔弾の射手）、ニネッタ（ロッシニ：泥棒かささぎ）、オリンピア（オッフェンバック：ホフマン物語）、マリア（クルシェネク：聖シュテファン教会の周りで）、プロニサヴァ（ミレッカー：乞食学生）、フランツィ（シュトラウス：ワルツの夢）、ハンジ（シュトルツ：春のバラード）等が含まれる。

プリギッテ・ファスベンダー、エディタ・グルベローヴァ、アンゲリカ・キルヒシュラーガー、クリスティアン・ゲルハーヘル、エミー・ヴェルナー、クリストフ・ロイ、ヘルベルト・フェッティンガー、フロリアン・タイヒトマイスター、ボビー・ハーズル、マルク・アルブレヒト等、世界的に著名なアーティストと仕事を共にしている。

オペラのほかにも、コンサートやオラトリオのソリストとしても熱心に活動しており、ヨーロッパ各地、北米、中国、日本の主要なコンサートホールでコンサートやリサイタルを行っている。